

きょうの紙面

◆主張、遊びの先輩登場、学生の気持ち2面

◆写真グラフィック3面

◆夏のイベント「頂上激突? 実行委対談」、私の視点4面

8月はさらにヒートアップ 実行委主導

秋田県立大学の薫風・満天フィールド交流塾は、新年度の4月から8月にかけ屋内外で、さまざまな活動に挑戦、塾生の「人間力」を高めた。拠点となる大潟キャンパスのフィールド教育研究センターでは、ムラ作りが本格的に始まっており、8月はさらにヒートアップ。学生の実行委員会が中心となつた9、10日の「加茂ライブ2008」に続き、23日には「夏まつり」を繰り広げる。

好企画が続く 薫風・満天塾

●多彩な活動メニュー

4月から7月にかけての活動は、多岐にわたった。もち米の手植えや馬鈴薯の植え付けに汗を流し、学外に飛び出しては山菜、タケノコ採りで収穫の喜びを知った。室内での活動も活発。自分たちで塩化ビニール管の尺八を作り、奏法の手ほどきも受けた。お菓子作りは、イチゴの収穫や粒分けといった「農作業」から始める念の入れよう。遊びそのものの幅を広げた。

●参加者の喜び続々

活動に参加した学生の声を拾うと、参加したことで得た喜びが伝わってくる。



盛り上がった加茂ライブ。
体験学習も笑顔と笑い声が絶えなかった。
(8月10日、旧加茂青砂小学校体育館)

その幾つかを紹介すると「山菜がこんなにおいしいものだとは知らなかった」(山菜採り)「農業を職業として、生

活を成り立たせていくことの厳しさをかい間見たが、農業に対する自分の考え方を話す農家の人は、とてもいきいきしていて輝いて見えた。私もこんな生き方ができる職業を選択したい、と思った」(地域農家との交流)

「手植え体験をしたことで、機械化による作業効率向上を実感することができた」(田植え)

「見るのと吹くのでは全然違う。音を出すだけで大変。一つの楽器には歴史がある」(尺八作り)

●実行委員会主導

さまざまな活動を繰り広げてきた。8月の2つのイベントに対する取り組みに、その特徴が現れている。学生が実行委員会を発足させ、その実行委が積極的に準備を進めているのだ。

薫風・満天塾の露崎浩塾長(アグリビジネス学科准教授)は「学生が前に出て活動し、教師がそれを支援する形を定着させたい」と話している。

「遊び」について

薫風・満天フィールド交流塾のキーワードは「遊び」だそうだ。

「遊び」と聞くと理由もなくうれしくなる。「遊ばせんとや生れけん。戯れせんとや生れけん」。よく知られた梁塵秘抄(十二世紀)の名句である。人は遊ぶために生まれるのだ。人類は「ホモサピ



小林 俊一 学長

エンス(知恵のある人)ではなくて「ホモルーデンス(遊びの人)」だと看破したのはホイジンガである(一九三三)。ここで言う「遊び」は「どんぐりころころ」の歌に出てくる「ぼつちやん一緒に遊ばしよう」の「遊び」である(注1)。

「すべての遊びは、まず第一に、何にもまして一つの自由な行動である。命令されて遊ぶ、そんなものはもう遊びではない。せいぜい、押しつけられた

遊びの写しでしかありえない」というホイジンガの意見は交流塾でも大切にしなければならぬだろう。

一方、「遊び」は工学で大事な意味をもつ。すなわち「ハンドルの遊び」に見

られるように「機械の部品と部品との間の余裕」のことをいう(注2)。ハンドル等、機械で人間が操作する部分の遊びは、不覚筋動を機械の動きに反映させないという効果がある。この「遊び」は「ゆとり」とか「無用の用(庄子)」とかに通じるもので、効率や合理性や偏差値や費用対効果などの対極にある考え方だろう。

交流塾は「どんぐりの遊び」と「機械の遊び」の両

方自身をつける場であってほしい。

◆注1 老婆心ながら、「どんぐりころころどんぐりこ」と歌う人が多いが「どんぐりこ」ではなく「どんぶりこ」が正しい。

◆注2 面白いことに英仏、独、伊、西、蘭などの言語で「どんぐり」の遊びと「機械」の遊びは同じだそう。

薫風抄

踊りがある。世界各地の打楽器が繰り広げるリズムの競演の中、その踊りの輪が広がったとき。老いも若きも、ひとつの輪を描いたとき……。思い返しただけで自然と笑みがこぼれた。やがて確信に変わる。みんな今も笑い顔になっているのだらうな、と▼加茂青砂では太陽も月も、山から上り海に沈む。太陽は、海と空をキャンパスに、あらゆる色を散りばめ豪華絢爛に沈んでいく。月は未明、色を失った海の上に銀色の一本道を描きながら。そんな光景が、ライブの名残と共に塾生の心に刻まれたらいいなあ、と思う。8月9日は上弦の月だった。

(清新寮寮監・土井敏秀)



男鹿市・加茂青砂の海岸で張り切る「加茂ライブ実行委」のメンバー

主張

責任の不在

清新寮の寮長となって2年目の僕が今、声を大にしたいのは、小さな集まりでさえ、どうして意見を出不さないんだよう、ということだ。

出した方が相手に、そして自分のためにもなるのに、言わない。周りの顔色をうかがっている。「考えている、その意見を口に出してくれ」。そんな場面に何度か出くわした。じっと待っているのが、歯がゆかった。

僕なりに分析すると、「体裁をとりつこう学生が増えているのではないか」ということである。何がそうさせているのだろうか？ それで何が楽しいのだろうか？

か？ もう一歩だけ踏み出せばいいのに。あえて生意気を言わせてもらえば、そういう学生は「責任」という言葉が嫌いなんだと思う。

今、社会という門の前に佇む私たちが、自分の発言というほんの小さな責任も負えないで、一体どう生きていけるのだろうか？ 悲しく、腹立たしく思っている。

清新寮寮長
数藤 敬太

「傷つきたくない若者」
大人は、僕ら世代をそう見ているのだという。

自分を傷つけない、他人を傷つけない、ぶつかり合いたくない、嫌われたくない。こういった気持ち、もちろん僕にもあるし、世代特有の感情でもないだろう。

う。誰にだってある当たり前の感情。なのになぜ、僕ら世代の特徴」として言われてしまうのか。残念で仕方がない。

「最近の若者は…」という嘆きは、古代エジプトの時代からあったと聞いた。となれば、僕らにレットルを張る大人も、なんらかのレットルを張られた「過去」を引きずっているに違いない。

だから大人に対してだって、物怖じする必要などないのだ。疑問に思ったこと、自分で考えた言葉をどんどん出していいんだ。まして同じ世代同士じゃないか。意見を主張し合おう。

野外を主な活動場所にする、この「薫風・満天塾」は、引きそうな気持ち奮い立たせてくれるかもしれない。ちよつと強引かな？(笑)

平成19年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に選ばれたプログラム一覧(大学分)

大学名	プログラム名	大学名	プログラム名
北見工業大学	夢を育むe-学生支援	島根県立大学	双方向的情報システムの構築による学生支援
宮城教育大学	障害者学生と共に学べる総合的支援	山口県立大学	総合的人間関係を涵養する学生支援
筑波技術大学	視・聴覚障害学生の専門性を高める学習支援	東北福祉大学	健康の自己管理能力を養う食育支援
群馬大学	チューター制度を活用した臨床実習支援	東北公益文科大学	インクルージョン社会をめざした大学づくり
千葉大学	双方向の多用な場づくりによる学生総合支援	慶應義塾大学	卒業生と連携した地域協働型政策研究支援
東京学芸大学	学芸カフェテリアによる学修・キャリア支援	國學院大学	学生みずから発信する「自分史」作成支援
東京農工大学	新しい地球人養成プログラム	東京家政大学	出身地域へのアウトリサーチによる自立支援
東京工業大学	3相のくつくりで社会へ架橋する	東京経済大学	TKU ベーシックプログラム
新潟大学	ダブルホーム制による、いきいき学生支援	東京女子大学	マイライフ・マイライフブリー
富山大学	「オフ」と「オン」の調和による学生支援	東京薬科大学	人間知を育む相互交流プログラムの展開
金沢大学	心と体の育成による成長支援プログラム	法政大学	「学生の力」を活かした学生支援体制の構築
信州大学	個性の自立を《補い》《高める》学生支援	明治大学	学生部による社会人基礎力形成支援の新展開
岐阜大学	生涯健康を目指す学生健康支援プログラム	早稲田大学	異文化共生社会で生きる力を養う実践活動
名古屋大学	潜在的支援力を結集した支援メッシュの構築	関東学院大学	校訓に基づく入学前～卒業後までの総合支援
滋賀医科大学	地域「里親」による医学生支援プログラム	名古屋学院大学	自分発見型学生支援ネットの構築に向けて
大阪大学	市民社会におけるリーダーシップ養成支援	同志社大学	地域コミュニティによる学生支援策
奈良女子大学	チャレンジする女性のキャリア形成支援	佛教大学	「縁」コミュニティによる離脱者ゼロ計画
島根大学	学生の自主的行動の評価と教育効果の向上	関西大学	広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ
愛媛大学	新時代の学生リーダー養成プログラム	プール学院大学	発達障害を有する学生に対する支援活動
高知大学	コラボ考案と2つの道場が育む自律型人材	畿央大学	健康で規則正しい生活が勉強する学生を創る
長崎大学	学生が自ら育む人間関係力養成プログラム	広島工業大学	技術系女子学生の継続的なキャリアデザイン
会津大学	プロジェクト卒業生240+α	立命館アジア太平洋大学	学生による若者と社会のための自主活動支援
大阪府立大学	WEB学生サービスセンター構想	沖縄大学	学びあい・支えあいの地域教育の拠点の創生
和歌山県立医科大学	実践的「地域医療マインド」育成プログラム	秋田県立大学	薫風・満天フィールド交流塾が育む人間力

遊びの先輩登場！

「塩ビ尺八」の案内人 高階悟さん(58)

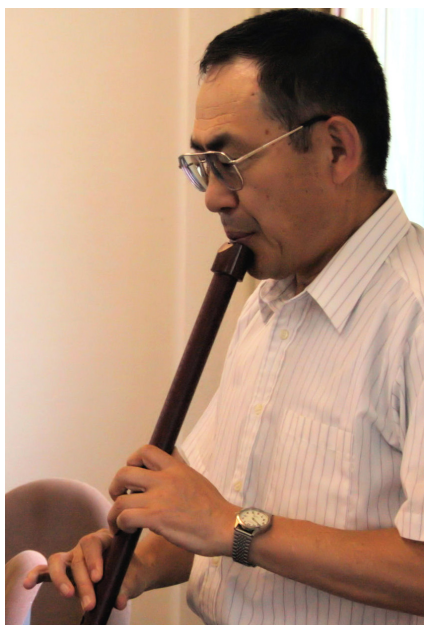
(総合科学教育研究センター教授)

「尺八を始めたいきっかけは？」

「尺八は元々、自分の父親がやっていた。昔の田舎の人は宴会の時に三味線や尺八を演奏したもので、その父親が亡くなったから自分も尺八を吹き始めるようになった」

「何で塩ビ管で尺八なんですか？」

「初心者はずまず塩ビ管か」



「尺八は安いです。塩ビ管の尺八は安いです。だいたいの尺八を使います。竹の尺八はともにもいい音が出るんですが、やはり値段もそれなりに高いです」

「先生はこの塾を通して学生にどんなことを知って、感じて、分かってほしいですか？」

「和楽器を通して伝統に

「私は英語も尺八も限界は無いと思っています。私が英語を学んでいても新しい発見があるし、38年間尺八を吹いていらつしやる児玉先生でも留まることをしらない。だから毎日コツコツと挑戦することが大事だと思います。何か挑戦していくという事は脳にも健康的にもいいからね(笑)」

「私は英語も尺八も限界は無いと思っています。私が英語を学んでいても新しい発見があるし、38年間尺八を吹いていらつしやる児玉先生でも留まることをしらない。だから毎日コツコツと挑戦することが大事だと思います。何か挑戦していくという事は脳にも健康的にもいいからね(笑)」

「尺八だね。尺八は最初、学生は忙しいから4回も活動を行なうのは難しいと思ったけど、非常に良かったと思います。薫風満天には雪祭りなどに参加しました。今度は夏祭り等で尺八を吹く機会を設けられたらいいですね」

学生の気持ち

アグリビジネス学科3年 嘉藤 寿大

「ちよ、おめ薫風・満天なにやるが決めだが？」
「ああ？ なんかやりでんだけまだ決めてね」
「せば、あれ一緒にやんね？」
「いいけど。でも難しくね？」
「一緒にやればなんとかなるべ」

「こんな、軽い感じで参加できるのが薫風・満天フィールド交流塾(らしい)。学生がこの秋田の自然に触れながら、やりたいと思ったことを支援してくれるのがいい(、ような気がする)。」

「もうひとつ分かったのは、やりたいことをやるっていいけど、自分がやりたいことがそのままできるわけじゃないってこと。あの程度の計画性、目標や協調性が必要だしね。まずい。マジなこと言ってるなあ。」

「これは実感なんだけど、3年生になって急に忙しくなり、机に向かう時間が増えた。睡眠時間も減り、遊ぶ時間も減り(ホントだよ)。さらに就職活動、資格取得、卒論とかが目前に立ちふさがっている(こんな入り口に過ぎないらしい。おこわ)。そうそう、将来について考えないと。そういう意味からも繰り返すけど、特に1、2年生諸君！」

「薫風・満天塾でやりたいことがあったら、企画を提案した方がいい。せっかくのチャンス。大学生という限りある時間の中で、精いっぱい何をやるか。勉強、恋愛、遊びのほかに、自分が立てた企画で盛り上がる、なんていいんじゃない。だから僕は、こども解釈している。」

写真グラフ



お菓子作り

○イチゴの収穫から、イチゴの粒分け、調理までの流れを感じながら楽しくできてとてもよかったです。もしイチゴの栽培から取り組んだのならもっといい体験になったと思います。
○失敗もあったがいちご摘みやケーキ作りなど普段では体験できないようなことができてとてもよかったと思う。



春から初夏にかけて、屋内外を問わずに幅広い活動を繰り返し広げた「薫風・満天フィールド交流塾」。田植えなど初めての体験に挑戦した学生も多く、好奇心いっぱいに取り組んでいた。そこにはいつもの笑顔があふれていた。



FISHING



尺八

○見るのと吹くのでは全然違う。音を出すだけで大変でまだまだ練習が足りなかった。
○尺八はリコーダーと違いとても難しいことに驚いた。練習を積み重ねて吹けるように頑張りたいと思う。



HONEY



山菜取り

○山菜の種類がわかったので一人でも採れるかもしれない。
○山菜がこんなにおいしいものだと思わなかった
○山に行った際には、足元の山菜にも目を向けたいと思う。

ジャガイモの定植

○朝、早起きをするのもなかなかいいと思った。
○朝早くで大変であったがすがすがしい気持ちで取り組むことができた。



田植え

○稲苗を手で植えるという体験はなかなかできないので、非常に楽しかった。
○手植はとても大変でした。お米が食べられることの喜びや農家の人の苦労がよくわかりました。

雑草観察

○何気なく道端にはえている草がそれぞれいろいろな違いをもっていることに気づかされた。同じ種類の植物でも個性があり、その違いを見るのはおもしろかった。



塾のあしたをリードするのはどっちだ!!



8月の2大イベントは、いずれも学生が立ち上げた実行委員会主導で行う。できるだけ多くの人に楽しんでもらおうと、両実行委は内容充実に努めている。それぞれの魅力は、どこにあるのか。「加茂ライブ2008」の小野寺理騎委員長と「夏まつり」の田口奈緒美副委員長が語り合った。対談は次第に熱を帯び、「こっちの方が面白い」と激突の様相。ふたりのイベントにかける思いが、交錯した。(おこわり この対談は加茂ライブ前に行われました)

実行委が“頂上対談”

「盛り上がりましょう」

「しえぎしえぎ」

代表・成田テツロウ&右近

8月10日のライブのタイトルは「ワールドパークションライブ」です。文字通り、世界各地のドラムの響きが、吹きつける風、うねる波のように、激しく体と心を揺さぶりま

小野寺「メインはなんだい？」
田口「大型熱気球搭乗



小野寺「こっちのキーワードは“知らない”。

体験、大型農業機械試乗体験
小野寺「大潟村からおおがた？」
田口「あーあ。小野寺くんて、いつからオヤジになっちゃったの？ 気球体

夏祭りの盛況を祈る

交流塾副塾長

今西 弘幸

交流塾はこれまで、2月の冬祭り、3月の春祭りなど、私たち塾関連の教職員に煽られて開いた感があつたが、始動してまだ1年経っておらず、ある程度仕方のないものと思つてい

は、塾生主体でかなり動いてきているように感じる。事実、この原稿は、新聞製作以外にも交流塾の活動に熱心に取り組んでいる塾生から依頼されて、書いて

ンパスを主な舞台としていからであろう。もつとも他のキャンパスの教職員の皆様には多大なる協力をいただいているし、他学科で寮外生の塾生は存在する。

話を夏祭りに戻そう。夏祭りの準備は佳境に入りつつある。「遊び」をキーワードにした交流塾では、まだ塾生ではない学生の“遊ぶちから”を大募集している。この際、その“ちから”を夏祭り実行委員に投げ掛けてみてはどうだろうか？ きっと忘れられない夏をつくることができるだろう。

部員募集

薫風満天新聞部では、一緒に新聞作りを楽しみたい仲間を募集しています。

資格は、あちこち飛び回って、いろんな話を聞きたい、するとその感動を多くの人に伝えたくなったーそんな熱意を持つていただけです。

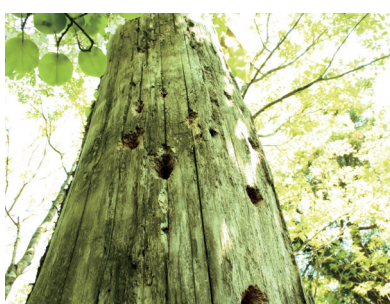
活動は、文章を書いたり、写真を撮ったり、レイアウトを考えたりと、これから役に立つことばかり。
さあ、次回の第3号は、君と一緒に！

新聞部加入の申し込みは薫風満天フィールド交流塾学生支援GP事務局【電0185(45)3211】へ。

私の視点

カメラマンBOBがお送り致します、薫風満天の活動中に見つけた『薫風満天写真コーナー』。今回も興味深いものと出会えました。

これは男鹿半島の真山に行つた時見つけたものでした。地面にはいつくばるよう



き物があるんですね。今度、野鳥観察なんてどうでしょうか。色んな野鳥を探しに秋田のあちこちへ出かけてみるのも面白いかも知れません。

参加者募集中です(笑) (伊藤さゆり)

ライブは、それぞれの演奏あり、コラボレーションありと多彩です。みなさん、加茂青砂の人たちと一緒に、踊りまくってください。気持ちいいことこの上なし、です。保証します。

秋田県の鳥獣保護セン

